エコアクション２１

環境経営レポート

2024 年度版

（運用期間　2024 年４月１日　～　2025 年 ３月 31 日）

2025 年　8月４日

JANITOR SERVICE 九州ﾁｬﾆﾀｰｻｰﾋﾞｽ株式会社

もくじ

１．事業の概要　・・・１

２．環境経営の取組体制　・・・２

３．認証・登録の対象範囲　・・・２

４．許可の内容、施設等の状況、処理実績　・・・３

５．環境経営方針　・・・４

６．環境経営目標　・・・５

７．環境経営計画　・・・６

８．環境経営計画に基づき実施した取組内容　・・・７

９．環境経営目標の達成状況　・・・８

１０．環境経営計画の取組結果の評価、今後の取組内容　・・・９

１１．環境関連法規への違反、訴訟等の有無　・・・１０

１２．代表者による全体の評価と見直し・指示　・・・１１

１．事業の概要

１）会社概要

商号	九州ヂャニターサービス株式会社
所在地 連絡先	〒803-0844　福岡県北九州市小倉北区真鶴一丁目5番26号 Tel　093-561-8000　Fax　093-561-8110
創立	1959年7月
資本金	3,000万円
代表者	代表取締役　山中　祐樹
事業内容	一般廃棄物収集運搬業（積替え保管なし）、産業廃棄物収集運搬業（積替え保管なし）、総合ビルメンテナンス業(オフィスビル清掃全般、環境衛生管理、設備管理、貯水槽清掃、防除業務)
事業年度	4月～翌年3月
従業員数	125名
会社履歴	1959年　7月　北九州清掃センター　として発足 1960年　4月　九州ヂャニターサービス株式会社　に社名変更
環境管理責任者及び担当者の連絡先	責任者　：　下原　康一 担当者　：　下原　康一 連絡先　：　Tel　093－561－8000 Fax　093－561－8110 E-mail　janitor8134@gmail.com

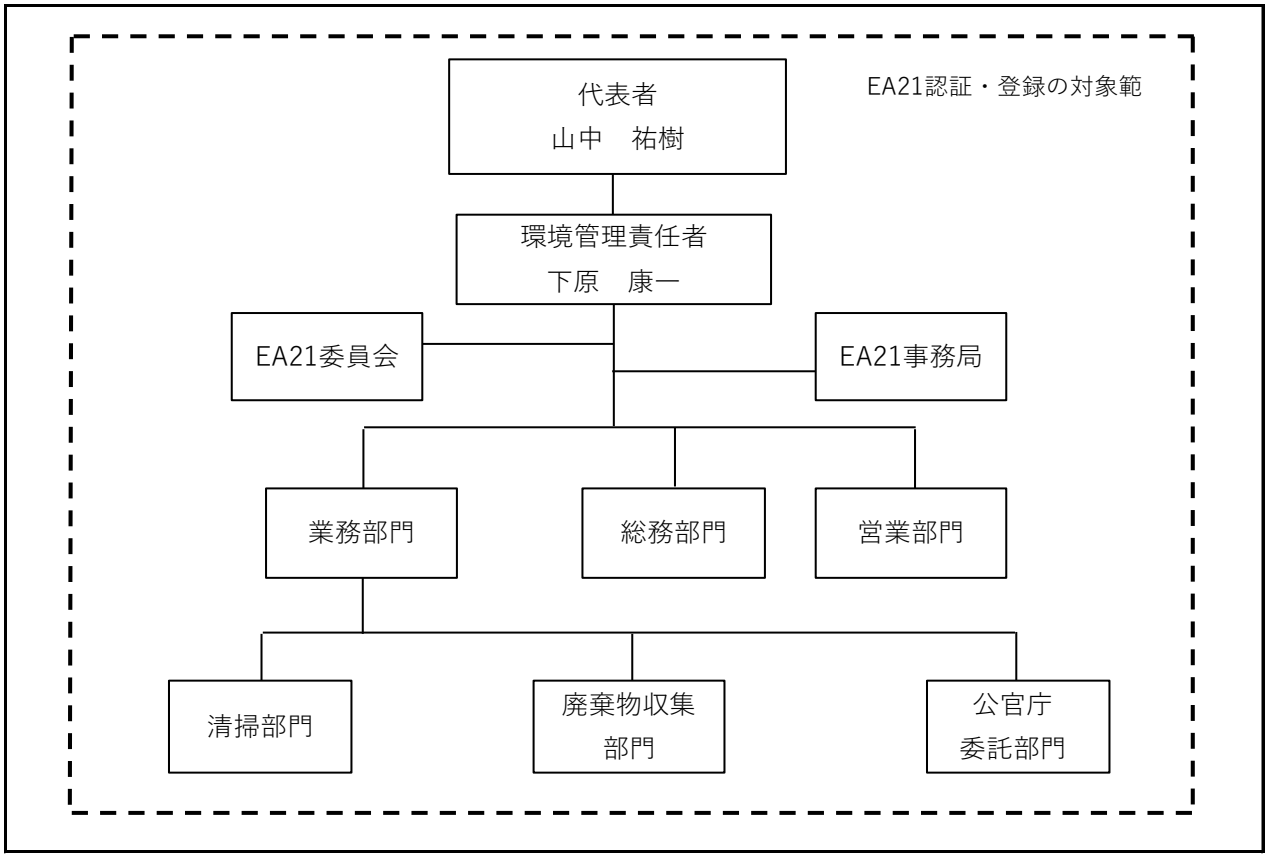
２）事業の規模

活動規模		単位	2022年度	2023年度	2024年度
受託した廃棄物の運搬量	産業廃棄物	t	137	158	182
	事業系一般廃棄物	t	3,192	3,098	2,704
	合計	t	3,329	3,256	2,886
売上高		－	売上高区分Ａ	売上高区分Ａ	売上高区分Ａ
従業員 ※2	従業員数 ※１	人	117	126	114
	従業員数（換算人数）	人	86	87	80
	対象範囲の従業員数	人	86	87	80
保有車両台数	廃棄物収集運搬車	台	8	9	9
	業務用車	台	9	9	9

備考：売上高区分　Ａ：5億円未満
Ｂ：5億円以上10億円未満
Ｃ：10億円以上

※１．非常勤役員も含めた総人数で従業員数を算出してます。
※２．2019年度より従業員の換算人数、対象範囲の従業員数の
計算方法を若干変えている為以前の数値と開きがあります。

2．環境経営の取組体制



3．認証・登録の対象範囲

登録組織名	内容
対象事業所	本社　〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴一丁目5番26号
対象活動	一般廃棄物収集運搬業（積替え保管なし） 産業廃棄物収集運搬業（積替え保管なし） 総合ビルメンテナンス業 ・オフィスビル清掃全般、環境衛生管理、設備管理、貯水槽清掃、防除業務

４．許可の内容、施設等の状況、処理実績

１）許可の内容

認可・許可の府県	許可名称	許可番号	許可の年月日	有効期限の年月日
福岡県	産業廃棄物収集運搬業	第04000029189号	2020年3月12日	2030年3月11日
北九州市	一般廃棄物収集運搬業	北九一廃第032号	2022年4月1日	2026年3月31日

２）事業の範囲

・産業廃棄物の事業範囲（17品目）
燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、ばいじん類、政令第13号廃棄物、（汚泥、廃油、廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ、金属くず、ガラスくず等については、水銀使用製品産業廃棄物を含む）、（燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、鉱さい、ばいじんについては、水銀含有ばいじんなどを含む）

・一般廃棄物の事業範囲：A類（ふん尿を除く一般廃棄物）
・積み替え、許可の条件：一般・産業廃棄物共に積み替え保管施設はない。
・許可の条件　　：　な　し

３）保有車両

2tダンプ	1台
2tパッカー	５台
軽トラック	２台
軽ダンプ	１台
業務用車※	9台

※　営業、清掃作業の使用車両合計台数

４）処理実績

処理方法等	廃棄物等種類	処理量（ｔ）		
		2022年度	2023年度	2024年度
収集運搬	一般廃棄物	3,192	3,098	2,704
	産業廃棄物（計）	137	158	182
	（汚泥）	66	76	99
	（繊維くず・動植物性残さ）	44	52	52
	（廃プラスチック類）	1	1	2
	（金属くず）	0.0	0.0	0.2
	（ガラス類）	26	29	29
収集運搬量合計		3,329	3,256	2,886

５．環境経営方針

環　境　経　営　方　針

【企業理念】

一．私達はお客様の心を心として仕事に真実をつくします。

一．私達は常に笑顔で助け合い今日の仕事に励みます。

一．私達は社長と共に社業の発展と自らの幸福を目指して働きます。

【環境経営方針】

１．エコアクション２１に基づく環境経営システムを構築し、省エネ省資源を自分ごととして捉え次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。

１）省エネ活動（電気、燃料）によって二酸化炭素排出量削減に取り組みます。

２）水使用量の削減に取り組みます。

３）廃棄物の排出削減に取り組みます。

2．環境関連法規等を遵守します。

3．環境経営目標を定め、定期的に見直し、継続改善に努めます。

4．化学物質使用量の適正管理に努めます。

5．グリーン製品および環境負荷のより少ない用品を購入するように努めます。

6．受託した廃棄物の適正処理および排出事業者のリサイクルへの理解促進に取り組みます。

７．行政機関などの環境保全施策に協力します。

８．環境経営レポートを作成し、環境への取組の状況を公表します。

制定日　２０１５年　８月４日
改定日　２０２４年　８月８日

JANITOR SERVICE 九州ジャニターサービス株式会社

代表取締役　　山中　祐樹

６．環境経営目標

環　境　経　営　目　標　（2024年度）

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
		2022年度実績	**2024年度**	2025年度	2026年度
		2022年4月～2023年3月	**2024年4月～2025年3月**	2025年4月～2026年3月	2026年4月～2027年3月
１．二酸化炭素排出量の削減	$kg-CO_2$	64, 265	**62, 337 (−3%)**	61, 694 (−4%)	61, 052 (−5%)
①電気使用量の削減	kWh	10, 321	**10, 011 (−3%)**	9, 908 (−4%)	9, 805 (−5%)
②ガソリン使用量の削減	L	5, 214	**5, 058 (−3%)**	5, 005 (−4%)	4, 953 (−5%)
③軽油使用量の削減	L	18, 684	**18, 123 (−3%)**	17, 937 (−4%)	17, 750 (−5%)
④都市ガス使用量の削減	m^3	66	**64 (−3%)**	63 (−4%)	62 (−5%)
２．水使用量の削減	m^3	453	**439 (−3%)**	435 (−4%)	430 (−5%)
３．事務所から排出した一般廃棄物の削減	ｋｇ	1, 300	**1, 261 (−3%)**	1, 248 (−4%)	1, 235 (−5%)
４．化学物質使用量の適正管理	ｋｇ	3. 4	適正使用・適正管理に努める		
５．グリーン購入の推進	%（購入金額）	95%	適正購入に努める		
６．環境関連の市民講座等への参加	件（参加数）	13	**17 (+30%)**	18 (+40%)	20 (+50%)
７．受託廃棄物のリサイクル促進	件（対応数）	52	**60 (+15%)**	62 (+20%)	65 (+25%)

備考

1．購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.402kg−CO_2/kWh（九州電力（株）2023年度実排出係数）を使用した。
2．（）は基準値に対する増減率を示す。

7．環境経営計画

・環境目標を達成するために策定した具体的な取組（環境経営計画）は以下のとおりです。

1．二酸化酸素排出量の削減（基準年比3%削減）

取組目標		活動項目	
①	電気使用量の削減（中間期を除く）	1	室温を決めてエアコン設定温度を調節する（冷房期28℃,暖房期20℃）
		2	不要電力消費抑制（不要な場合は機械を止める運動）
		3	省エネ製品への移行
②	ガソリン使用量の削減	1	アイドリングストップ手順を決め、実行する
		2	車両の燃費向上（エコドライブ）
③	軽油使用量の削減	1	搬送ルートと搬送方法の見直し
		2	定期的な車両メンテナンス
④	都市ガス使用量の削減	1	使用時間を決め、実行する

2．水使用量の削減（基準年比3%削減）

取組目標		活動項目	
①	節水活動の推進	1	ごみ収集車の洗車時の節水活動
		2	節水対策用具への取り組みの見直し

3．事務所から排出した一般廃棄物の削減（基準年比3%削減）

取組目標		活動項目	
①	一般廃棄物の排出抑制	1	使い捨て商品の使用、購入の抑制
		2	詰替え可能な製品の利用

4．化学物質使用量の適正管理

取組目標		活動項目	
①	年間化学物質使用量の把握・管理	1	使用量の把握と管理
		2	SDSの取得と管理

5．グリーン購入の推進（購入金額比率95%）

取組目標		活動項目	
①	グリーン購入の推進	1	事務用品、清掃用品の見直し改善

6．環境関連の市民講座等への参加（基準年比30%増加）

取組目標		活動項目	
①	環境関連講座等への参加	1	講座等への参加

7．受託した廃棄物のリサイクル促進（基準年比15%増加）

取組目標		活動項目	
①	ごみの分別の促進	1	分別方法のお知らせの配布・掲示
		2	収集時の分別確認と報告

8．環境経営計画に基づき実施した取組内容

1－①

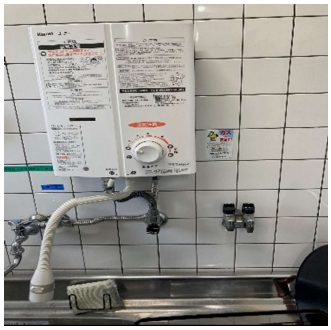
電気使用量の削減

電化製品の省エネモデルへの買い替え

1－②

ガソリン、軽油の使用量削減

最新版エコドライブ資料の掲示、配布



1－③

都市ガス使用量の削減

冬の使用時間、温度設定の管理

ガスコンロの撤去

2

水使用量の削減

節水用具への見直し

まとめ洗い用のラック設置

3

事務所から排出した一般廃棄物の削減

詰め替え用品使用による消耗品ごみの削減

4

化学物質使用量の適正管理

化学物質管理者の選定

5

グリーン購入の推進

用品購入時はグリーン購入製品を確認

6

環境首都検定受験

環境教育の一環として、毎年10名以上受験

7

受託廃棄物のリサイクル促進

分別方法のお知らせ、分別促進

8

エコアクション感謝状

2015年から取り組みを開始して今年で9年目

９．環境経営目標の達成状況

環境経営目標	単位	基準年 2022年度 実績 （2022年4月～ 2023年3月）	2024年度 （2024年4月～2025年3月）		目標達成率	達成判定
			目標	実績		
１．二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	67,894	62,337 (−3%)	**67,189**	93%	△
①電気使用量の削減	kWh	11,076	10,011 (−3%)	**12,353**	81%	×
②ガソリン使用量の削減	L	5,218	5,058 (−3%)	**6,528**	77%	×
③軽油使用量の削減	L	19,965	18,123 (−3%)	**18,193**	100%	△
④都市ガス使用量の削減	㎥	84	64 (−3%)	**71**	90%	△
２．水使用量の削減	㎥	464	450 (−3%)	**367**	123%	◎
３．事務所から排出した一般廃棄物の削減	kg	2,100	2,037 (−3%)	**1,230**	166%	◎
４．化学物質使用量の適正管理	kg	3.4	3.4	適正使用、適正管理に努める	—	○
５．グリーン購入の推進	% （購入金額）	95%	適正購入に努める			
6．環境関連の市民講座等への参加	件 （参加数）	13	17	**13**	76%	×
7．受託廃棄物のリサイクル促進	件 （対応数）	52	60	**48**	80%	×

※　達成判定区分　◎：目標達成率110%以上　○：100%以上110%未満　△：90%以上100%未満　×：90%未満

１０．環境経営計画の取組結果の評価、今後の取組内容

取組目標	達成判定	活動項目	※実施判定	評価および今後の取組内容
1. 二酸化炭素排出量の削減	△	車両のガソリン、軽油を中心に使用量の削減活動に取り組む。	△	＜取組結果＞ 二酸化炭素排出量の削減は目標達成ならず。 電気、ガソリンの使用量増加が主な要因と考えられる
①電気使用量の削減	×	室温を決めエアコン設定温度で調節する。 （冷房期28℃,暖房期20℃） 不要電力消費抑制 （不要な場所の電気は切る）	△	＜取組結果＞ 冷暖房稼働時期の使用量の削減が出来なかった。中間期と言われる冷暖房の稼働が緩やかな時期も使用量が増えた事や温度設定管理の甘さ等が今回の取組結果につながったと考えられる。 ＜次年度の取組内容＞ 無駄な電力消費を防ぐためにエアコンの電源を短い時間でON/OFFを繰り返さない、一時的に温度を変更したら必ず戻す等明確なルールを決めて周知を行い、削減に取り組んでいく。
②ガソリン使用量の削減	×	車両の燃費向上（エコドライブ） 搬送ルートと搬送方法の見直し	△	＜取組結果＞ エコドライブや搬送ルートの見直しなどの取組だけでは目標達成に至らず昨年より使用量が増加してしまった。 ＜次年度の取組内容＞ 現在行っている取組を継続しながら新たに対策を増やし削減につなげていきたい。
③軽油使用量の削減	△	搬送ルートと搬送方法の見直し 細めな車両メンテナンス	○	＜取組結果＞ エコドライブや搬送ルートの見直しなど取組では目標達成に至らなかったが昨年より使用量を削減する事が出来た。 ＜次年度の取組内容＞ 現在行っている取組を継続しながら新たに対策を増やし削減につなげていきたい。
④都市ガス使用量の削減	△	使用時間を決め、実行する	△	＜取組結果＞ 春夏の使用量は抑える事が出来た。冬の給湯器の使用回数を減らす取り組みを行っていく。
2. 水使用量の削減	◎	ごみ収集車の洗車時の節水 節水対策用具への取り組み	○	＜取組結果＞ 食洗ラックを購入してまとめ洗いを実施。昨年より使用量を削減できた。 ＜次年度の取組内容＞ 節水対策用具はつねに確認を行い、次回買い替え時に導入を検討していく。洗濯時に蛇口の水を出しっぱなしにしている等を複数回確認しているので注意と改善していく。
3. 事務所から排出した一般廃棄物の削減	○	使い捨て商品の使用、購入の抑制 分別の徹底とリサイクルの促進	○	＜取組結果＞ 使用頻度が高い事務用品等、詰め替え可能なものは徹底的に詰め替え用の購入を行い、使用して事務所から出る一般廃棄物の削減に心掛けた。 ＜次年度の取組内容＞ ごみの分別の徹底や修理による道具の長寿使用を行い、さらに廃棄物の削減に努める。
4. 化学物質使用量の適正管理	適正管理	使用量の把握･管理 SDSの取得と管理	○	＜取組結果＞ 使用量を把握、管理ともに良く出来ている。また、SDSも都度取得している。 ＜次年度の取組内容＞ 引き続き活動を継続していく。
5. グリーン購入の推進	×	事務用品、清掃用品の見直し、改善	×	＜取組結果＞ 購入の際のグリーン対象商品の把握、購入が今一つ今期も出来ていなかった。 ＜次年度の取組内容＞ グリーン購入のチェックや環境に配慮した製品の購入の徹底に努める。
6. 環境関連の市民講座等への参加	×	講座等への参加	×	＜取組結果＞ 環境関連の市民講座やイベント参加は今期も出来ていなかった。 ＜次年度の取組内容＞ 特定の人だけが環境講座を受講するのではなく、他の現場従業員にも受講するように割り振りをして参加回数を増やしていく。
7. 受託廃棄物のリサイクル促進	×	分別方法のお知らせの配布･掲示 収集時の分別確認と報告	△	＜取組結果＞ 目標未達成。分別のお知らせは積極的に行っているが、現状ごみ捨ての分別等守られていない現場は数件確認できた。 ＜次年度の取組内容＞ 分別が守られていな現場は1度だけでない場合が多いので、特に分別が守られていないビルの共通のごみ捨て場等は管理会社と協力し、根気よくごみ捨ての指導を行っていく。

※ 達成判定 ◎:目標達成率110%以上 ○:100%以上110%未満 △:90%以上100%未満 ×:90%未満
※ 実施判定 ○:達成 △:おおむね達成 ×:未達成

１１．環境関係法規への違反、訴訟等の有無

・2022年度中も、当社に係わる環境関連法についての違反および他社からの訴訟はありませんでした。
・また、関係当局よりの違反指摘も、過去3年間ありませんでした。

・地域住民および関連する機関等からの苦情もありませんでした。

主な環境関連法規		主な遵守事項	遵守判定※
廃棄物処理法	一般廃棄物	一般廃棄物の収集運搬許可･更新	○
		適正処理	○
		帳簿の作成･保存	○
	産業廃棄物	産業廃棄物処理事業等許可の取得 （含む水銀）	○
		適正処理	○
		帳簿の作成･保存	○
建築物衛生法		貯水槽清掃業の登録要件	○
		建築物ねずみ昆虫等防除作業の登録要件	○
		建築物環境衛生総合管理業の登録要件	○
フロン排出抑制法		業務用空調機簡易定期点検	○

備考）※遵守判定区分　○：遵守　×：不遵守　－：該当なし

１２．代表者による全体の評価と見直し･指示

＜代表者による全体の評価と見直し･指示＞

2024 年度は、世界平均気温が産業革命前より 1.55℃上昇し、パリ協定で定められた 1.5℃目標を単年で初めて超えた史上最も暑い年となりました。世界各地で気候危機と言われるほど、気温上昇、異常気象、大規模な森林火災等が頻発し、日本においても年初の能登半島地震、台風による記録的な大雨等、地震や自然災害による影響は年々深刻化し、こうした災害リスクに取り組んでいくことは、事業継続、環境経営を行っていく上で、喫緊かつ不可避であると感じております。

当社では、2015 年のエコアクション 21 の運用開始から、来年で 10 年を迎えようとしております。節目を迎えるにあたり、これまで継続的に取り組んできた活動を振り返り、今一度、環境マネジメントシステムの意義をしっかりと見つめ直し、社員一丸となって実践していきたいと考えております。

＜取り組み全体の評価＞

2024 年度の環境目標の達成状況は以下の通りとなりました。

1）電気使用量の削減は、目標未達、基準年と比べ大きく上回り、特に夏季・冬季の空調稼働時期の管理が十分にできていませんでした。
2）ガソリン使用量削減は、期中より業務エリアが拡張したこともあり、目標未達、基準年と比べ大きく上回っております。
3）軽油使用量の削減は、やや目標には達成しておりませんが、基準年に対して削減することができました。従前からのエコドライブや収集ルートの見直し、ドライバー間のコミュニケーションが上手くできていた結果と感じております。
4）都市ガス使用量の削減は、目標未達、基準年に対しては削減することができました。
5）水の使用量は、目標達成、基準年に対して大幅に削減することできました。
6）事務所から排出した一般廃棄物の削減は、目標達成、基準年に対して大幅に削減することができました。
7）受託廃棄物のリサイクル促進活動は、法改正や処分場の搬入規制が厳しくなり、取引先からの問い合わせも増えてきている現状があり、今後とも対応やリサイクル促進活動を継続していきたいと考えております。
8）その他、2024 年度は全体的に見て環境目標の達成状況が良くありませんでした。一部、業務拡張のため仕方のない点もありましたが、電気使用量、特に空調管理等に関しては、取り組みが十分にできていない点、気のゆるみ、問題意識の共有ができていない点等、憂慮すべき点も多かったように感じております。

＜見直し・指示について＞

近年の環境行政の動向、経営環境の変化を捉え、足元の自社のエコアクション 21 の活動について、良かった点も悪かった点も共有し、取り組み状況の確認、評価、改善に真摯に取り組み、2025 年度に向けて社員一丸となって取り組んでいきたいと考えております。